

平成27年12月10日

知事答弁実録

（教育委員会）

（問）乳幼児期の子供の成長について

「ひろしま未来チャレンジビジョン」を含め、国や県の政策議論の場において、大事な点が一つ抜け落ちているのではないかと感じている。

それは、子供たちの健全な成長に何が必要なのかという視点である。

人口減少社会を迎え、労働力人口の減少が大きな課題となる中で、働く女性に対する積極的な支援が行われ、また、人口を増やすための少子化対策も様々な取組が実施されている。

子供をできるだけ産み、その後はできるだけ早期に社会に復帰し、活躍をしてもらいたいとの方針で、保育所整備をはじめとする子育てをしながら働く環境づくりは、十分とは言えないまでも随分と議論もされ、多種多様の取組がなされている。

一方、乳幼児期の子供の育成は、その後の成長の基礎づくり、土台づくりの期間でもあるが、乳幼児期の子供の成長にとって何が必要か、家族や保育士との関わりはどうあるべきかといった議論や政策はないに等しいと感じている。

例えば、乳児期に、母親をはじめとする身近な人との間に、しっかりと愛着を形成することができるかどうかで、子供のその後の成長に影響があると言われ、最近の研究では、必ずしも母親との愛着形成のみが必要なわけではなく、父親や保育士など、限られた数人との愛着形成であっても良いという成果も出されている。

愛着形成という一例を挙げたが、子供の成長に関する視点に立った議論や調査、そして活発な取組が欠かせないと考える。

知事は就任早々、育児休暇を取得し、イクメンという言葉を普及させた実績もあり、子供の成長についても強い思い入れがあるのではないかと推察する。

そこで、乳幼児期の子供の成長について、知事の思いと、今後の取組への決意を、併せて伺う。

(答)

全ての子供たちの健やかな成長は、人づくりの基本となるところであり、私を含め県民全ての願いであると考えております。

特に乳幼児期は、生涯にわたる人格の形成を培う重要な時期であり、保護者をはじめとする身近な人たちからの触れ合いによる愛着の形成や語りかけによる言葉の発達、また、生活の中心となる遊びを通じた創造性や主体性の育成が必要であると考えております。

このため、0歳児期にしっかりと親子の絆をつくり、子供の心に安心を育むため、初めて子供を持つ親と0歳児を対象とした親子の絆づくりプログラムの実施や、父親との愛着形成を図るためのお父さん応援プログラムといった研修を実施しております。

また、今年度は、教育委員会において、家庭、幼稚園、保育所など養育環境に関わらず、県内全ての幼児に質の高い教育・保育が行われ、その後の教育への基礎が培われることを目指し、調査・研究を行っているところでございます。

今後、この調査結果を踏まえ、関係機関が連携した家庭教育へのサポートや乳幼児期における質の高い教育・保育を推進するための取組の具体化を行うこととしております。

さらには、安心して子育てできる環境を整えることが、ひいては子供の健やかな成長につながることから、イクちゃんサービスをはじめとした、子育てにやさしい環境づくりとともに、市町の乳児全戸訪問や乳幼児健診への支援によって、子供と親の心身の健康の保持に努めているところでございます。

今後も引き続き、乳幼児期からの子育て、子育てを積極的に支援することにより、次代を担う子供たちが健やかに成長する広島県の実現に全力で取り組んでまいります。